

smc PENTAX-DA 18-135mm F3.5-5.6ED AL [IF] DC WR 価格6万1509円
 機動性の高さゆえ、あらゆるシーンでレスポンスよく撮影できるのが高倍率ズームの魅力。このDA 18-135mm F3.5-5.6 WRも約27.5ミリのワイド画角から望遠207ミリの広い領域をカバーし、さらには防滴構造で持ち出すシーンを選ばないという万能ぶり。高感度撮影にも強くなったK-70と組み合わせればこれまで高倍率ズームが苦手だった暗いシーンでも迷わず撮影し連れ出せます。(β機にて撮影)

絞り●F5.6
 シャッター速度●1/60秒
 撮影モード●マニュアルISO200
 デジタルフィルター●ジオラマ使用



こ
ん

電子写真機変愛 第十五夜

製品写真 / 油科康司 (WPP)

基本に忠実、基礎を充実。今回は真面目一徹ペンタックス K-70

写真と文 織本知之



最近 部屋の壁を自分で塗装してみました。ホームセンターでペンキとハケを見繕い、木目にヤスリをかけ、気の向くままに壁中を塗ったつもりで……これが実に楽しいです。すっかり味をしめて、次は下コを塗ろうかなと思案中。塗る場所よりも塗らない場所のメンテナンスに勝機アリ。

な
寫
眞
に
變
を
す
る

決して斬新さを失っているというわけではありません。また、面白みに欠けてきたというわけでもなく、どちらかと言えば「さて、そろそろホンキの片鱗も見せちゃおうかな」的な雰囲気を感じる今年のペンタックス。例えばアニメでヒーローが人知れず背負っていたオモリを外して見せたときのような「やれやれ、俺が本気を出す時が来たよだな……」感の本気度を感じるのではありません。

このあとヒーローはたいいてい超絶スピードで無敵無双になるのですが、ペンタックスも今年のCP+（日本最大の写真映像用品展示会）でフルサイズのK-1を発表したときに重しのついた鎧に手をかけたように見えました。このとき他社も「ペンタックス、いよいよか……」と固唾を呑んでいたように思えます。そして今回、APS-Cサイズのローパスレス2424万画素CMOSセンサーを搭載した新型機K-70を発表したのです！あれ？ 外観、従来機のK-S2にヤケに似てね？ と思ったヒトは非常に細かな点に気が付いて、全体の進捗進行をつねに把握し、管理保全に目を光らせ、上司の覚えめでたく、しかし同期のカラオケ会にはなぜか呼ばれないといったコトはありませんか？ ときには目をつむることも人生の潤滑油。

そう、外観なんて飾りです！ 旧来のモデルに似ていながワルイ？ その代り中身はがっつりパワーアップしましたぜ！ 上位機種K-3と同等クラスの2424万画素のCMOSセンサーはローパスフィルターレスで偽色、モワレを軽減するセレクター機能を装備。そのソフト技術を用いたリアル・レゾリューション画像是理論的に色モワレが発生せず、圧倒的な精細画像を得ることが可能に。そしてK-1から採用された動体補正機能により、リアル・レゾリューションはさらに多くの被写体に対応。最高連写速度もK-S2より向上して約6.0コマ秒と実用充分。さらには撮影感度もアップしてK-70ではなんとISO102400もの超高感度にアップ。AF性能もさらに充実させ、ライブビュー撮影時にはコントラストオートフォーカスと位相差検出フォーカスを併用し、ペンタックス初のハイブリッドAFを搭載。これにより高速で高精度なオートフォーカスが実現したのであります。

またペンタックスのデジカメと言えば細やかな気配りが随所にちりばめられていることはペンタ愛好家には常識。モニターの明るさを使用環境に合わせて素早く調節できるアウトドアモニター、闇夜での天体撮影時に目がくらまないように赤色に表示変更できるといった、いかにもペンタックスらしい目配り気配り思いやり。

そして天体撮影といえばペンタックスではアストロトレーサーという機能が特色。オプションのGPSユニット「O-GPS1」をアクセサリシューに取り付けられれば、カメラ内の手ぶれ補正機構と連動しGPS情報から取得した緯度、磁気センサー、加速度センサーの情報と合わせてセンサーと天体の動きとが同調することにより、長時間露光でも星が流れずに点像のままの本格天体写真を撮ることができるといふグレモノ機能です。GPSユニットO-GPS1は緯度経度の撮影場所情報、電子コンパスとしての機能もございませぬゆえ、K-70と組み合わせればアウトドアでのアドベンチャーフォトも随時記録できることであらう。

さて、アウトドアといえば防塵防滴マイナス10度まで対応できる頑丈ボディなK-70でございますが、レンズにも耐候性能を求めたいモノです。

というわけでまずは「smc PENTAX-DA 18-135mm F3.5-5.6ED AL [IF] DC WR」。K-70に装着すると35ミリ判換算で広角27.5ミリから望遠207ミリの7.5倍の高倍率ズームレンズ。幅広い領域をカバーできる使いやすい機動性の高い常用レンズがまずは最初の1本目。

そしてアウトドアといえば望遠レンズ。新登場したKマウント用望遠ズーム「HD PENTAX-DA 55-300mm F4.5-6.3ED PLM WR RE」をぜひ。35ミリ判換算で約85ミリから460ミリの望遠ズームであり、ズーム全域での緻密な描写力、そして最短撮影距離0.95mという扱いやすい小型望遠ズームとなっております。さらに11か所およびシーリングにより防滴構造も採用。タフな使用状況でもへこたれない信頼性を備えております。

細部まで作り込まれた堅牢ボディの目であるファインダーは視野率100%のガラスプリズム、中央9点がクロスセンサーとなっている11点AFポイント、各種デジタルフィルターにWi-Fi機能など伝統のカメラメーカーらしさが強く伺える真面目なミドルクラスのデジ一眼でありました。



ペンタックス K-70

価格オープン
 (18-135WRキット実勢11万円前後)
 ①リコーイメージング
 ②0570-001313
 www.ricoh-imaging.co.jp/



HD PENTAX-DA 55-300mm F4.5-6.3ED PLM WR RE

近日発売予定 (想定売価6万円前年)
 望遠レンズの一番の魅力はやはり小さく見える遠くのモノを大きく引き寄せて撮れるにつきます。最大460ミリの望遠域まで撮影できる55-300mm F4.5-6.3 WRなら思う存分望遠レンズの表現力を堪能でき、望遠ズームとしてはまだ珍しい沈脚構造を採用して全長は89mmに収め、約442gの軽量質量でこれまでの大きく重かった望遠ズームのイメージを覆します。(β機にて撮影)

絞り●f6.3
 シャッター速度●1/4000秒
 撮影モード●プログラム(-1補正)
 撮影感度●ISO1600

往年のマニュアルレンズでも撮影できるぞ！

AF化に当たってマウントを変更しなかったペンタックスは往年のMFレンズを現代のデジ一眼に装着して撮影することができる。MFレンズには数種あるが、露出フルモードに対応する「PENTAX-A」レンズを選べばOKだ！



ココもスゴイよ新型ズーム



沈脚構造を採用した小型望遠ズームPENTAX-DA 55-300mm F4.5-6.3ED PLM WR REは全長89mm、質量約442gと軽量。レンズ本体各所にシーリングを施した防滴構造で荒天時や湿り気の多い場所での信頼性を向上。K-70に装着すると約85ミリから460ミリの超望遠ズームとなる。最短撮影距離0.95mと非常に扱い易し。

ココがスゴイよ天文写真！

GPSユニット「O-GPS1」とK-70を組み合わせるとカメラ内の手ぶれ補正機構と連動し、長時間露光でも星が流れずに点像のままの本格天体写真を撮ることができるといふアストロトレーサー機能を使えるようになります。O-GPS1は緯度経度情報を記録し、電子コンパスとしても使用できます。価格2万3666円。



ココがスゴイよ高感度！

ISO3200
 これでも充分すぎるほど高感度ですが、クリアな画質でございます。実用可能ですね。

ISO102400
 目を凝らしてみると少々アラが目立ちますが、薄暗い場所でも一瞬だけなら勝負できる。そんな美魔女の高感度画質です。

